

研修テーマ	外来カミキリムシの被害と対策について	参加者	埼玉支部 24名 他県支部 59名
講師	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 砂村栄力氏	場所	Withyou さいたま 視聴覚セミナー室
資料	「外来カミキリムシの被害と対策」P-point 資料	記録	三島 摩耶
目的	近年、樹木に激害を及ぼすクビアカツヤカミキリ、ツヤハダゴマカミキリ、サビイロクワカミキリなどの外来種が各地に侵入し、在来種の生態や人間生活に大きな影響が懸念されています。この研修で、それら新興の外来カミキリムシについての最新の知見を広げ、生活環や生態、加害状況、識別方法、駆除方法を学び、今後の防除につなげる。		

## ■研修内容

### (第1部) 外来カミキリムシ類の侵入動向

世界で被害が大きいと言われている外来カミキリムシ類の年表から始まり、近年日本で被害が懸念させているクビアカツヤカミキリ、ツヤハダゴマカミキリ、サビイロクワカミキリの日本における分布、遺伝解析による侵入履歴の推定、侵入経路について解説を受けた。また、在来ゴマダラと外来ツヤハダの識別方法、奇主樹木・被害木からの種の識別方法についての解説。



講師：砂村氏

### (第2部) 生態の概説

カミキリムシの生活史、産卵痕、サビイロクワカミキリの産卵行動、幼虫の樹皮下への食害、フラス排出、成虫の発生時期、後食、配偶行動、繁殖干渉について動画も交えた解説。



会場参加者講義風景



識別方法

### (第3部) 防除法概説、防除法各論（クビアカ事例中心）

外来カミキリの防除には侵入の予防、侵入の監視、初期の根絶、密度管理が重要であること、密度管理の管理手法として化学的防除、物理的防除、生物的防除があり、それぞれ日本で行われていることを中心に、森林総研で行われている研究内容も含めた解説。